公益社団法人
東京都理学療法士協会 News
NO.221

2022.2.25 発行
◆発　行　公益社団法人
東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
医療法人社団永生会
法人本部リハビリ統括管理部
〒193-0942
八王子市椚田町 583-15
TEL :042-661-4108

第４１回関東甲信越ブロック理学療法士学会　開催のお知らせ
（同時開催）第４１回東京都理学療法学術大会

テーマ：新しいスタンダードの構築に向けて
―令和の理学療法の進み方―

開催方法：会場での対面開催とその内容のライブ配信、またアップロードされた発表データをオンデマンド配信する WEB 開催をあわせたハイブリッド学会として開催。

会期：2022 年 9 月 10 日（土）・11 日（日）

内容：基調講演 / 特別講演 / 教育講演 (一部) / シンポジウム等

会場：日本教育会館

〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

学　会　長：林 弘康（八王子保健生活協同組合 城山病院）

副 学 会 長：原島宏明（医療法人財団健貢会　総合東京病院）

準備委員長：中澤幹夫（医療法人社団幸隆会　多摩丘陵病院）

■演題登録期間

2022 年 3 月 1 日（火）正午　～　4 月 27 日（水）正午

学会ホームページ
https://www.gakkai.co.jp/kanbloc41/index.html

学会ホームページ　QR コード

報告者　第４１回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員長　中澤幹夫

221 号の目次

第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員会…… 1
地域活性局 …… 2～7
小児福祉部…… 8
障害福祉部…… 9
選挙管理委員会…… 9
医療報酬部……10～15
スポーツ局スポーツイベントサポート部…… 16～21
スポーツ局学校保健部…… 22～23
災害対策委員会…… 23
倫理委員会…… 24～25
機関紙編集部 ……26 ～ 27
編集後記…… 27

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック部　板橋区支部　板橋区サッカー連盟少年部イベントサポート & 相談会（板橋区サッカー連盟女子の部サポート）

場　所：戸田緑地サッカー場

日　時：2021 年 12 月 12,19 日

大会名：荒川クリエーションカップ

内　容：

今回、板橋区女子サッカー選抜チームに帯同しサポート活動を実施しました。参加理学療法士は延べ３名で板橋区の参加選手は延べ 30 名でした。活動内容は急性外傷時の対応や練習・ウォーミングアップ・クーリングダウンの指導でした。怪我に関して選手対応は無いもののコーチや保護者へ指導する場面がありました。

コロナ禍で久しぶりの大会となりましたが、大きな怪我や事故もなく大会を終えることが出来ました。サポートにあたって板橋区サッカー連盟並びに都士会の基準に準じて十分な感染対策を実施しました。今後もコロナ禍は続いていくものの、医療従事者として微力ながら、板橋区の地域スポーツの発展や安全に貢献できれば光栄です。

報告者：日向智（竹川病院）

区西北部ブロック部　板橋区支部　子育て応援教室におけるウィメンズヘルス教室

日　時：令和４年２月８日（火）、17 日 (木)

場　所：板橋区子育て応援児童館 (蓮根第二児童館)

対　象：乳幼児の育児中の女性　各教室 10 名

テーマ：子育て応援教室におけるウィメンズヘルス教室 (尿もれ予防教室)

内　容：

板橋区子ども家庭部のご依頼を受け、区内児童館にて乳幼児育児中の女性を対象に、区内及び都士会内の感染予防策に準じて十分な感染予防策を取り、子育て応援教室を開催しました。今回の講義テーマのご依頼は「尿もれ予防」でした。

講義では①妊娠中、産後、育児中の身体および姿勢の変化について②呼吸方法と骨盤底筋群体操での予防 (実技) という２点に重点をおき、お伝えしました。女性のライフステージにおける尿もれについての説明では、幾度か訪れる尿もれの危機を知り、長い目で気にかけていくことの大切さを感じてもらえました。また参加者の普段の姿勢や育児中の作業姿勢について見つめてもらうことで、肩こりや腰痛など二次的な弊害も併せてアドバイスをすることができました。

講義時間 (約 30 分) で体の知識、日常姿勢と育児中姿勢のアドバイス、運動を行うには短時間でしたが、ご自身の体について関心をもち、質問もしてもらいながら参加していただき、和やかな雰囲気の中、終えることができました。講義終了後も参加者どうしの交流へ発展し、施設責任者の方からも全体を通し好評価をいただきました。

今回、教室は事前予約制でしたが、コロナ禍ということもあり、当日の参加希望者が多かった状況です。今後も産後および育児中の女性に対して、生活・運動指導を通じて、乳幼児の健やかな成長と保護者の仲間づくりなどの子育て支援の一助になる活動を継続できればと思います。

報告者：林依子 (イムスグループ板橋ロイヤルケアセンター)

地域活性局

報　告

局長　中澤 幹夫

第区西北部ブロック部　板橋区支部　板橋区災害リハビリテーションに関する講習会

日時：2022 年 2 月 7 日

場所：Zoom を用いたオンライン

講師：佐伯潤先生（エイブル山内株式会社）

内容：

今回、佐伯潤先生（エイブル山内株式会社）を招き災害リハビリテーションに関する講習会を実施しました。板橋区役所地域防災支援課の方々も出席され、理学療法士 26 名（都士会 19 名）、一般参加者 4 名が参加されました。

佐伯先生は、災害に対応する危険の理解と安全な行動の教育の向上を目的に、品川区や渋谷区の小・中学生を対象に防災・災害授業を始めています。このような取り組みを板橋区の皆様にもご紹介したく、講習会を企画しました。学校保健には、保健管理と保健教育があります。保健教育の一領域に「安全教育」があり、安全教育は学習指導要領ほか、文科省の指針では、「生活安全（防犯等）」、「交通安全」、「災害安全（防災）」に大別されること、そして防災安全に理学療法士が関わることが出来る可能性を講義されました。生徒自身が災害時の状況をシミュレーションし自身の安全に守ることは障害予防であり、防災・災害授業を展開することは都民の方々の安全に繋がると指導してくださいました。いつどこで何が起きるかわからない災害現場では、【迅速な判断】や【大きな声で助けを呼ぶこと】が大切になると、私たち大人の安全にもつながる内容でした。板橋区支部では来年度重点事業に「防災」を掲げています。今後、防災・災害授業を企画し、皆様の安全を守る取り組みをしていきます。

報告者：北田利弘 / 板橋区支部

区西北部ブロック部　北区支部　東京赤羽ハーフマラソンのサポート＆相談会

日　　時：2022 年 1 月 16 日（日）

大 会 名：第 13 回東京・赤羽ハーフマラソン代替大会　Akabane10K チャレンジ

主 催 者：北区陸上競技協会

場　　所：北区荒川河川敷

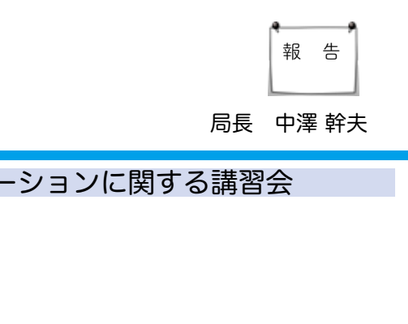
参加者数：約 1705 名（ブース来場者 61 名）

参加スタッフ：区西北部ブロック部　７名　スポーツ局　４名

内　　容：

第 11 回東京・赤羽ハーフマラソン大会に続き、２回目のサポートとなりました。新型コロナウイルスの影響もあり例年に比べ参加者は少なかったですが、ブースでは密にならないよう間隔をとり、感染対策をとりながら行いました。サポート内容は大会前の相談、大会後のストレッチやマッサージを提供することが出来ました。

来場者からは「身体のことのアドバイスをもらえてよかった」「身体のケアをしてもらえるのは助かる」などのお声を頂きました。また、前回からのリピーターの方の来場もあり、嬉しく感じました。今回の事業は、スポーツ局の協力を得ながら実施することが出来ました。北区支部として、これからも地域のスポーツ活動をサポートしていきたいと思います。ご協力頂きました皆様有難う御座いました。



報告者：佐藤奈つ美（大橋病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区東部区東北部ブロック　令和３年度江東区支部公開講座

日時：令和４年１月２２日土曜日

会場：WEB

内容：

順天堂東京江東高齢者医療センターの國枝洋太氏を講師に招き、「コロナ禍における認知症予防～生活の工夫と運動のススメ～」をテーマに６０分ご講義いただきました。新型コロナ感染症の新規感染者が増える状況下で開催が危ぶまれましたが、感染対策ガイドラインに基づき会場設営から運営手順をスタッフ間で確認し準備から開催まで無事に執り行うことができました。江東区地域ケア推進課の後援協力も得て広報活動を行い、参加者は７名でしたが今後の事業運営の礎となる経験ができました。

西多摩南多摩ブロック部　羽村市支部　介護予防セミナー

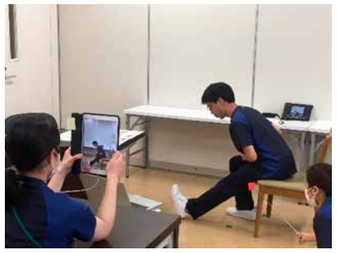
日　時：2020 年 12 月 18 日（木）14 時 00 分から 16 時 00 分

参加者：一般都民 11 名、PT 都士会員５名

会　場：WEB

内　容：

都民を対象とした介護予防セミナーをオンラインで開催致しました。「ストレッチと筋トレのいろは」という講座と個別相談会を実施しました。講座ではストレッチと筋トレの目的や効果、頻度や強度、実施上の注意点など基本的事項を解説しながら、実際に身体を動かしていただきました。ほとんどの方が積極的に身体を動かしながら参加してくださり、「筋肉が伸ばされる感じ」や、「収縮している（力が入っている）感じ」を体感できたようでした。オンラインですと質問が出にくくなることが想定されましたが、当日は多くの質問が挙がり質疑も盛り上がりました。個別相談では参加者の身体状況を伺い、その方に見合ったストレッチや筋トレの方法を指導させていただきました。参加者の中には Zoom 自体が初めてという方もおりましたが、オンラインでのセミナーを楽しんでいただけたたようで、「この先も Zoom を使ってみます」との声が聞かれました。



報告者：佐藤文雄（羽村三慶病院）

区中央部区南部島しょブロック　令和３年度千代田区支部研修会

日時：令和 4 年 1 月 21 日金曜　19 時 00 分～ 20 時 30 分

会場：WEB

内容：

今回、千代田区の介護予防・地域包括ケアシステムの仕組みとそれを通して理学療法士が区民の皆さまに貢献できることを学ぶよい機会を得ました。九段坂病院 鳥飼先生の講義では、地域包括ケアシステムや介護予防事業で区内在住６５歳以上の方に対して、住み慣れた地域にある区民館などで開催される９つの介護予防教室があることを学びました。これにより区民の方が住み慣れた所で生活機能を維持していけること、理学療法士も積極的に関わることで地域貢献に繋がることを改めて学びました。グループワークでは、現在の課題である介護予防活動を区民の皆様にどのように広報するかの検討や専門職が地域包括ケアシステムに参加しやすい環境をどのように作ればよいか意見を交わしました。これからも地域包括ケアシステムの理解を深め、区民の方が地域で自分らしく暮らしていけるよう理学療法士としての責務を考えていきたいと思います。

報告者：河合修（お茶の水整形外科機能リハビリテーションクリニック）

地域活性局

報　告

局長　中澤 幹夫

第２回区西北部ブロック部症例検討会

日時：2021 年 12 月 19 日（日）９時～ 13 時

会場：オンライン

プログラム

講演 1「急性期における最新・最近の心臓リハビリテーション」

講師：新井康弘氏（練馬光が丘病院）

講演 2「回復期における最新・最近の心臓リハビリテーション」

講師：伊達祐輔氏（イムス板橋リハビリテーション病院）

症例検討会　９演題　（発表 10 分質疑応答 15 分）

内容：

区西北部ブロック部では、学術集会と症例検討会を交互に隔年で開催しており、今年度はオンラインにて開催しました。ブロック部で若手を育てるという視点から①査読結果をフィードバックし抄録・発表スライドをブラッシュアップする②質疑応答時間を 15 分取り、じっくり議論をする配慮をしています。

症例検討の前に「最新・最近の心臓リハビリテーション」というトピックスで所属の病期が異なる 2 名の先生に講義をしていただきました。非常の多くの先行研究を示し根拠に基づきかつ実践的な講義であり有意義な内容でした。後半の症例検討では、オンラインにもかかわらず発表者・質問者の双方向の議論がなされており、発表者・参加者とも得るものが多かったと思います。参加人数は 60 名で、遠くは沖縄・島根等、オンラインのメリットを活かせた研修会でした。コロナ禍の収束以降でも活用できる方法であると実感でき意義深い研修会でした。

報告者：帝京平成大学　芳野 純

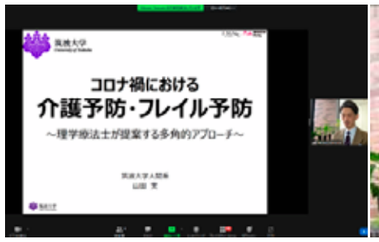
参加者の感想

新井先生と伊達先生のご講演では「急性期・回復期における最近・最新のリハビリテーション」というテーマでお話しいただきました。新井先生の急性期における内容では、新たに改訂されたガイドラインから、急性期の現状と問題点・今後の動向を説明していただき、今後の臨床場面に活かせる知識を得ることできました。伊達先生の回復期における内容では、集中的な心リハの効果や従来の心リハへの移行率、患者指導・地域連携など回復期リハ病院の現状と今後の課題について分かりやすく説明していただき、急性期病院にいる私も回復期の心リハについて理解・関心が深まる内容でした。その後は、アットホームな発表・討議を目的としたフレッシュマンの先生方との症例検討会が行われました。私自身、初めての学会発表の場であり、終始緊張感を持ちながらの発表となりましたが、座長やご清聴頂きました各病院の先生方から貴重なご意見を頂き、新たな視点や学びを得ることができました。一年目から多くの貴重な経験をすることができ、大変有意義な症例報告会となりました。ご教授頂いた事をこれからの臨床の場で活かしていきたいと思います。今回、演題査読や座長をしてくださった先生方、ご意見・アドバイスを頂きました各病院の先生方に心からの感謝と御礼を申し上げます。

報告者：落合 舞香　東京北医療センター

第９回 西多摩南多摩ブロック学術集会

日　時：令和４年１月30日（日）９：00 ～ 13：30
会　場：Zoom によるオンライン開催
大会長：小林　健一（康明会ホームケアクリニック）
プログラム：
特別講演「コロナ禍における介護予防・フレイル予防
　～理学療法士が提案する多角的アプローチ～」
講　師：山田　実　氏　（筑波大学　人間系　教授）
一般演題①（6 演題）11：00 ～ 12：00
一般演題②（6 演題）12：10 ～ 13：10
参加者数：105 名（都士会員 66 名、日本理学療法士協会会員 39 名、その他 1 名）



内容：
特別講演では、介護予防・フレイル予防の基本的内容から、実際の介護予防事業の効果や課題、住民主体の「通いの場」についてなど、若い会員にとってもわかりやすい内容でご講演いただきました。実際のデータ等を基にお話いただき、改めて気づかされることも多い内容でした。山田先生が実施されている「web 版集いのひろば」の内容もご紹介いただき、コロナ禍においても、理学療法士としてどのような角度からアプローチしていけそうかというモデルをお示しいただけた特別講演となりました。
一般演題では、幅広い経験年数の会員に演題登録をしていただきました。慣れないオンライン形式での演題発表となりましたが、座長のスムーズな進行により活発なご質問も多く、発表者、参加者ともに大変有意義なものであったと思います。一般演題では、みなみ野病院田畑寛人氏の演題「脊髄空洞症の再発により重度の対麻痺を呈した患者に対し車椅子シーティングを行った症例」が優秀賞に選ばれました。Web 上でもスムーズにご講演いただいた講師の山田先生や、座長、発表者、参加者皆様のご協力をいただき、非常に有意義な学術集会となりました。

報告者：工藤 弘之（大久野病院）

西多摩南多摩ブロック部　町田市支部研修会

日　時：令和４年２月10日（水）　19：00 ～ 20：45
会　場：Web 上（Zoom）
テーマ：『起居動作のバイオメカニクスとリハビリテーション（寝返り～起き上がり）』
講　師：国際医療福祉大学大学院　福祉支援工学分野教授　石井　慎一郎氏
参加者：54 名（都士会員 40 名、他県士会員 12 名、非会員 PT2 名）
内容：
今年度の研修は、石井慎一郎氏による寝返り、起き上がりのバイオメカニクスとリハビリテーションについてオンラインにて講義して頂きました。寝返りや起き上がりがどのようなメカニズムで行っているのか、そのメカニズムを元にしてどのような治療的介入が必要なのかを動画や実演も交えながら講義して頂きました。寝返りと起き上がりの２つのテーマでしたが、神経生理学、解剖学、運動学などの内容も含めてとても細かな説明があり、あっという間に時間が経ってしまうほどの充実した講義でした。寝返り、起き上がりだけでなく立ち上がり、歩行についてもぜひ聴講してみたいと思える研修会となりました。　報告者：実松　寛之（オネスティ南町田）

西多摩南多摩ブロック部　令和３年度八王子市支部研修会

日　　時：2022 年 1 月 26 日（水）18:30 ～ 20:00
開催方法：Zoom によるオンライン開催
テ　ー　マ：オリパラ 2020 でのサポート活動
～オリパラ 2020 東京大会活動報告とこれからの地域スポーツへの貢献～
講　　師：藤川明代（社会医学技術学院）
　　吉野浩一（永生クリニック）
　　元井康弘（永生クリニック）
座　　長：西井琢馬（多摩リハビリテーション学院専門学校）
参加者数：34 名

内　　容：
　今回は、オリンピック・パラリンピックでの活動実績のある３名の講師をお招きし、実際のサポート活動についてご講演いただきました。
藤川氏には、車椅子ラグビーの魅力から選手の特徴、サポートの内容や、ドーピング対策についてご講演いただきました。吉野氏には、緊急時の初期対応の重要性、事前の対応練習の様子などをご講演いただきました。元井氏には、パラアスリートへの理学療法士としての関わりから、地域でのスポーツ活動に貢献していく取り組みについてご講演いただきました。
　特に、３名の先生方のスポーツに対する熱意が伝わる内容であり、これからサポート活動に参加したいと考えている理学療法士にとって、背中を押してくれる講演であったと思います。事業開催基準がステージ２に引き上げられた中、感染対策に一層留意しながらの開催となりましたが、無事に研修会を終了することができました。今後も八王子市支部として、地域スポーツや学校保健分野への取り組みを進めていきたいと考えます。

報告者：齋藤隆哉 (東京医科大学八王子医療センター)

区中央部・区南部・島しょ部ブロック部　台東区支部研修会

日　　時：令和４年１月26日（水）18:30 ～ 20:00
会　　場：Web 開催（zoom）
参加者数：36 名
テ ー マ：明日から現場で使える患者指導のポイント －チームビルディング・子育てにも活用できる関わり方－
講　　師：赤羽　秀徳先生（一般社団法人　赤羽総合腰痛研究所　代表理事）
内　　容：
台東区支部として初となる、オンライン開催での研修会でした。講師には赤羽秀徳先生をお招きし、患者指導のポイントをテーマにご講義いただきました。内容は選択理論心理学をベースに大きく３部に分かれており、①モチベーション、②“責任”の概念＆ビジネスの黄金律、③「医療モデル」と「パブリックヘルスモデル」という構成でした。①ではモチベーションに関する考え方を、人間の基本的欲求の特徴や個人の価値観による違いまで掘り下げながらご解説いただきました。②では「自分がして欲しいと思うことを相手にもする」という黄金律のために、他人や過去を変えようとせずに自分の現在・未来を変えること、そのためにすぐにやめたい習慣・身に付けたい習慣をお話していただきました。③ではメンタルヘルスに関して、症状が表れた後に対処する「医療モデル」ではなく、日常で健全に欲求充足ができる「パブリックヘルスモデル」が必要ということ、そのための方法についてご説明いただきました。
　オンラインの開催ではありましたが、赤羽先生から参加者へのチャット機能を用いた質問にも多くの返答があり、みなさま積極的に参加できていたのではないかと思います。今回の講義の内容は、副題にもあるようにいろいろな場面で活用できるものであり、患者指導に悩む若手セラピストだけでなく、組織作りに奮闘している中堅セラピストにとっても、多くの学びのある時間であったと思います。

報告者：鈴木元太（永寿総合病院）

小児福祉部

報　告

部長　黒川　洋明

第９回東京都小児理学療法セミナーを開催しました

1 月 22 日（土）に昨年に引き続き Zoom を使用して開催しました。
テーマは「いま、子どものからだと心を考える」として
野井 真吾 氏（日本体育大学 体育学部　健康学科 教授）、
深澤 宏昭 氏（相模原療育園 理学療法士）をお招き致しました。
定員 100 名に対して、申込者 131 名、事前入金完了者 128 名、当日参加 90 名となり、
後日 14 日間、youtube の限定配信では、200 回以上の再生回数がありました。
野井氏からは、各研究結果を踏まえた現代の子ども達における「からだ」の特徴、生活環境の重要性について、深澤氏からは、理学療法士として発達障害のある子ども達の評価・支援方法について実践に基づいてお話して頂きました。
アンケート結果も大変好評で「障害の有無に関わらず、生活の中で大切にすべきことを、根拠を持って知ることができました。」「理学療法士で発達障害のお子さんに対して理論的にプログラムを組み立ててリハビリを行っているお話は非常に貴重でした。」など、「多様性」を認める社会が求められる今日において参加者に幅広い視野・選択肢を提供できたセミナーとなりました。

障害福祉部

報　告

部長　工藤 弘之

障害福祉部研修会開催報告

【日時】　2022 年 1 月 17 日（月）　18：30 ～ 20：00
【タイトル】障害者福祉サービスの理解を深めよう　～通所サービスの実際～
【講師】小原 誠太郎　先生
（東京都手をつなぐ育成会　江戸川区立みんなの家　施設長）
【開催形式】Zoom による Web 研修会
【参加者】　22 名
【概要】
　障害者福祉サービスの理解を深めようということで、障害者の権利条約についてご説明いただきました。障害のある人が人としての尊厳を尊重され、社会生活のあらゆる面で権利が保障されることを国際的に約束したものが権利条約ですが、例えば我々は障害者と言われていませんが、自分ができないことは手伝ってもらったり、道具を使ったりなど、何かの助けを得ることで生活をすることができています。
　しかし、障害を持った方は、構造上の問題などから助けが困難なために、生活がしにくくなってしまう面が多くあります。「障害のある人々は同年齢の市民と同等の権利をもっている」という点が重要で、その権利を行使するために、「障害者総合支援法」に基づいて様々なサービスが提供されていることを、江戸川区や自施設の例を出しながらわかりやすくご講義いただきました。
　本研修会を通して、生活のしにくさは人それぞれありますが、障害を持たれている方は、その程度が大きいことを実感しました。一人ひとりの特徴や場面に応じて生じる困難を取り除くための合理的配慮や、各々が意思決定できることの重要性を学びました。

報告者：金子　慶太（東京総合保健福祉センター　障害者支援施設　江古田の森）

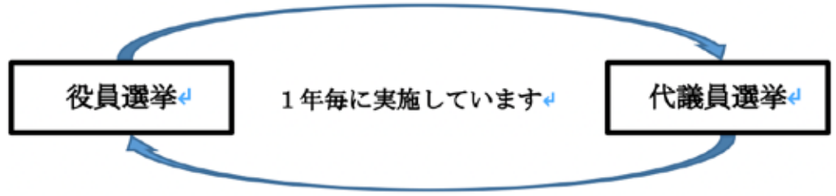
選挙管理委員会

お知らせ

委員長　高橋 雅人

選挙管理委員会より　代議員選挙についてのご案内

東京都理学療法士協会では、１年毎に役員選挙と代議員選挙を実施しています。



2022 年は代議員選挙が実施されております。
詳細は、東京都理学療法士協会ホームページ　URL：http://pttokyo.net をご確認ください。

立候補者については、2022 年 3 月上旬に
東京都理学療法士協会ホームページ ＞ 会員の方へ ＞　会員の方へのお知らせ
に詳細が掲載されておりますのでご確認下さい。

報告者　野々山 良輔（東京大学医学部付属病院）

令和３年度　診療報酬に関する調査報告

東京都理学療法士協会会員の所属する全医療施設を対象に「令和3年度　診療報酬に関するアンケート調査」を実施させていただきました。以下に詳細を報告致します。

調査期間：2021年9月27日～10月31日　　回答方法：Googleフォームを利用したアンケート形式

広報：東京都理学療法士協会ホームページ掲載、FAX通信、ブロック・支部へメール配信

回答数：148施設　　回答率31.3%

1. 回答者情報

－1. 所属ブロック（件数）

区中央部・区南部・島しょ	21
区西南部・区西部	31
区西北部	23
区東北部・区東部	34
西多摩・南多摩	19
北多摩	20

－2. 所属施設での立場（施設数割合%）

施設長	2.0
部長・課(科)長	47.3
係長	16.2
主任	25.0
チームリーダー（などの管理職）	3.4
一般職員	6.1

－3. 経験年数（施設数割合%）

1～5年目	0.7
6～10年目	4.7
11～15年目	25.7
16～20年目	32.4
21～25年目	23.0
26～30年目	6.8
31年目以上	6.8

2. 回答施設の基本情報

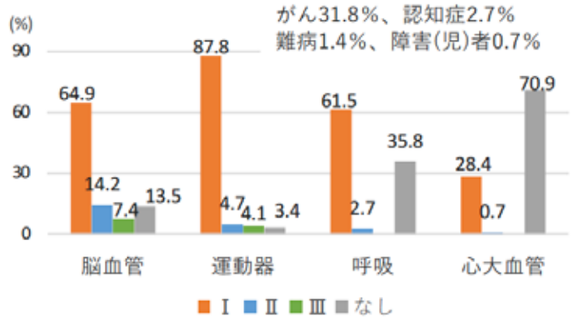
－1. 病床数

病床数（平均）	施設数割合（%）
無床	15.5
1-100床（69.8）	17.6
101-300床（174.2）	41.9
301-500床（401.2）	14.9
501-1000床（659.8）	8.8
1001床以上（1115.5）	1.4

－2. 病院機能（施設数割合）

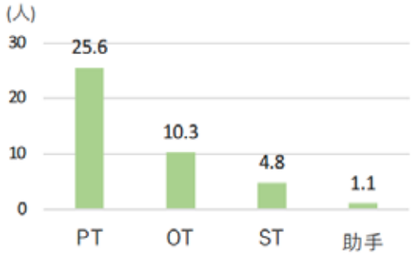
「その他」内訳
緩和ケア2施設、認知症1施設、結核1施設、
障害者1施設、特殊疾患1施設、介護医療院1施設
居宅介護支援1施設、訪問看護ステーション1施設

－3. 施設基準（施設数割合）



3. リハスタッフ数

－1. スタッフ数平均（人）

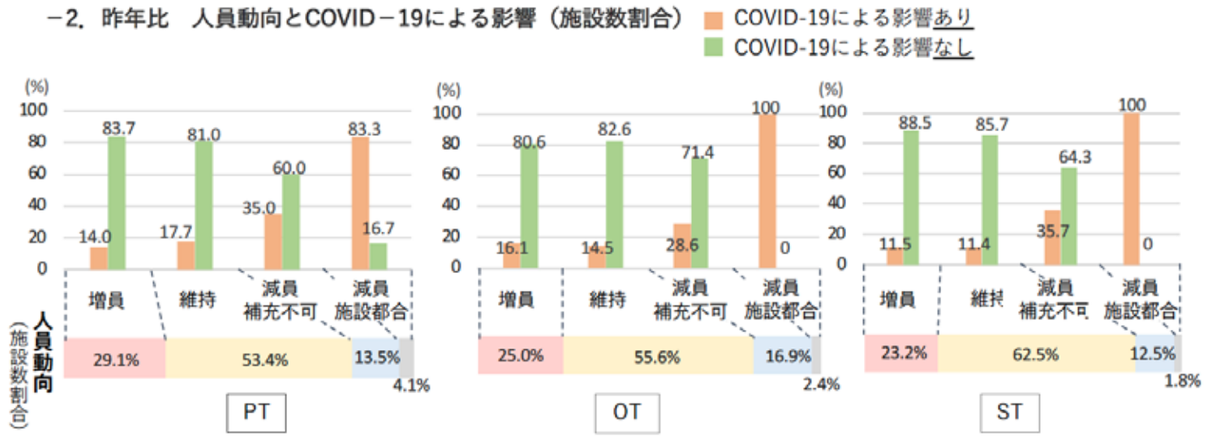


医療報酬部

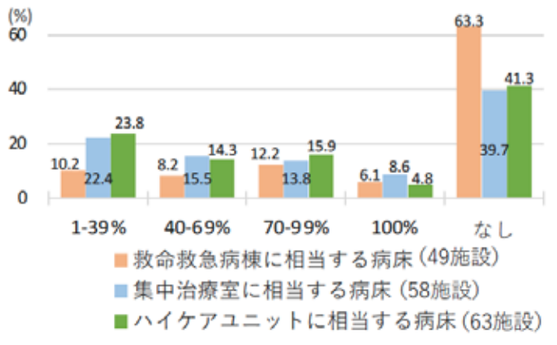
報　告

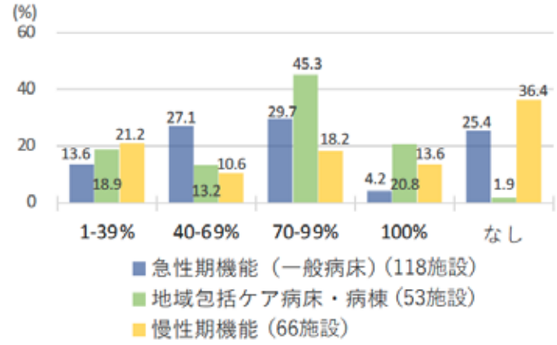
部長　廣瀬 幸子

－2. 昨年比　人員動向とCOVID－19による影響（施設数割合）



4. 病期機能別リハ処方割合（施設数割合）





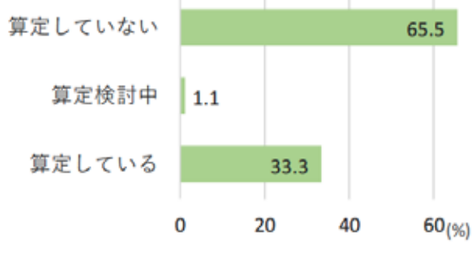
※ 属性末尾は回答施設数

その他の機能を有する病床のリハ処方割合

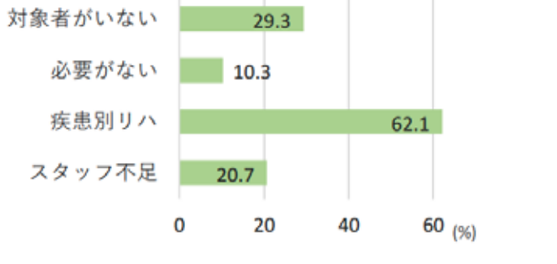
	処方割合	施設数		処方割合	施設数
感染症	50%未満	3	精神科病棟	50%未満	3
	50%以上	2		50%以上	1
緩和ケア	50%未満	2	小児病棟	20%未満	2
	50%以上	2		20%	1
認知症病棟	50%	1	結核病棟	30%	1
	80%	1	介護医療院	100%	2

5. 早期離床・リハビリテーション加算

－1. 算定状況（施設数割合）対象：87施設



－2. 算定していない理由（施設数割合）回答：58施設（複数回答）



6. 回復期リハビリテーション病棟（回答：53施設）

R2年度改定で入院患者の発症からの期間に係る事項が削除された。発症又は手術から2ヶ月を超えて（以前は入院要件を満たせなかった）入院する患者の全体に対する割合と疾患・経過期間

＜入院患者の割合＞

施設数割合(%)	
改定前と同様	22.6
1-5%	37.7
6-10%	22.6
11-20%	1.9
詳細不明	15.1

＜疾患＞

脳血管疾患、ギランバレー症候群、循環器疾患、運動器疾患、廃用症候群、COVID-19後、その他

＜発症日からの経過期間＞

4～8ヶ月の回答が多かった

7. 地域包括ケア病棟（回答：53施設）

入棟経緯	施設数割合
自院内の急性期病棟から	50.3％
他院の急性期病棟から	19.8％
自宅からの入院受入れ	20.7％
介護施設等からの緊急入院受入れ	9.2％

8. 実施計画書の整理について

－1. 早期介入への影響（施設数割合）

改定前と変化はない	89.2%
早期介入が可能となった	8.8%
その他	2.0%

－2. 様式変更について（施設数割合、複数回答）

作成・説明しやすくなった	24.3%
作成・説明しにくくなった	12.8%
業務が減った	8.1%
業務が増えた	26.4%
改定後の様式を使用していない	19.6%
リハ総合実施計画書は作成していない	8.1%
その他	18.2%

－3. ①運動量増加機器加算（施設数割合）

算定している	6.8%
算定を検討中	7.4%
算定していない	85.1%

－3. ②算定機器（複数回答）

歩行神経筋刺激装置	10施設
能動型上肢用他動運動訓練装置	4施設
能動型展伸・屈伸回転運動装置	1施設

9. 介護との連携

－1. 算定している加算（複数回答、施設数割合）

目標設定等支援・管理料	70.3%
リハビリテーション計画提供料	31.8%
介護支援等連携指導料	4.1%
介護保険リハ移行支援料	5.4%
どれも算定していない	25.0%
該当施設でない	2.0%

－2. 「目標設定等支援・管理料」を算定していない理由（回答：15施設、記述を集計）

医師の協力が得られない	40.0%
業務量が増える	13.3%
対象者がいない	6.7%
算定準備中	6.7%
術後早期退院、入院期間短縮	6.7%
他職種との作成が困難	6.7%

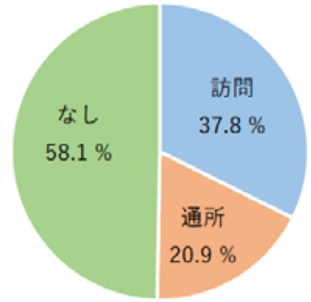
医療報酬部

報　告

部長　廣瀬 幸子

算定していない理由（回答：25施設、記述を集計）

業務量が増える	28%
他部署との連携不足	16%
対象患者がいない	16%
その他の加算との兼合い	8%
理由なし	8%



－5. 介護保険施設との連携手段（記述を集計）

出現頻度順

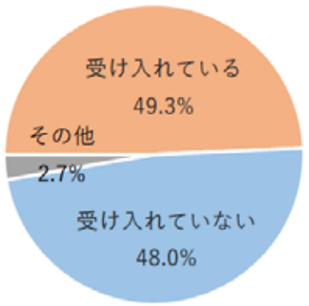
＜出現頻度が多いもの＞

・退院前カンファレンス
・報告書作成
・電話連絡
・サービス担当者会議

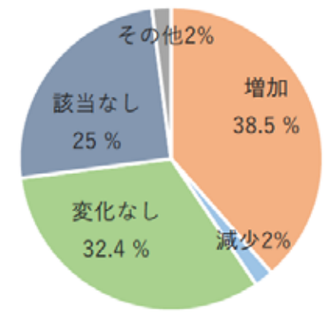
（図は自由記載文をUserLocal社テキストマイニングツールを使用し解析）

10. 新型コロナウイルス感染症による影響

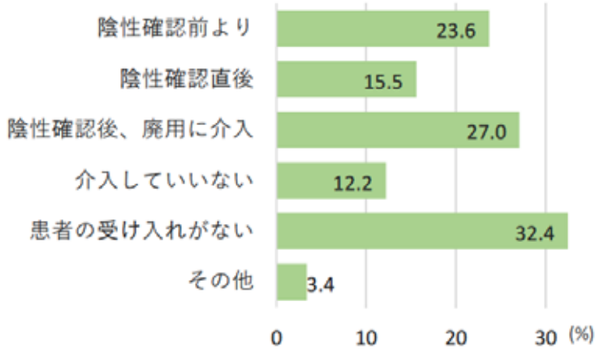
－1. 新型コロナウイルス陽性患者（偽陽性も含む）を受け入れていますか？（施設数割合）



－2. 昨年と比べて新型コロナウイルス患者の受け入れに変化がありましたか？（施設数割合）



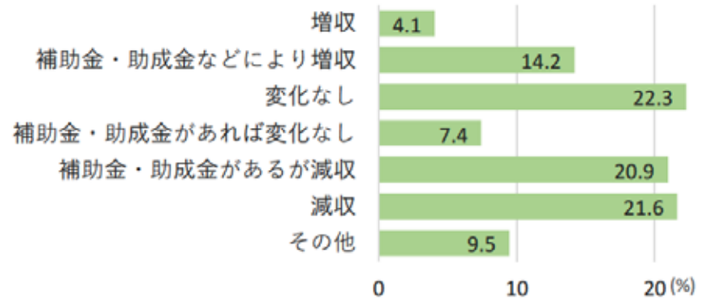
－3. 新型コロナウイルス陽性患者に対してリハ介入していますか？（複数回答、施設数割合）



−4. 陽性患者に対するリハ介入の担当者について

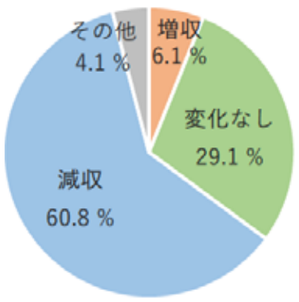
限定	33.1%
限定していない	6.8%
その他	5.4%
該当なし	50.7%
未回答	8.1%

−5. コロナ前と比べて施設全体の影響は？（施設数割合）

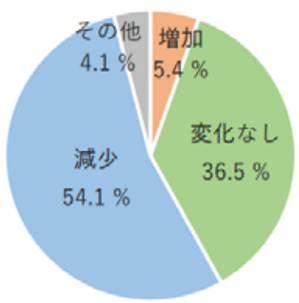


−6. 新型コロナウイルス感染症によるリハ部門が受けた影響（施設数割合）

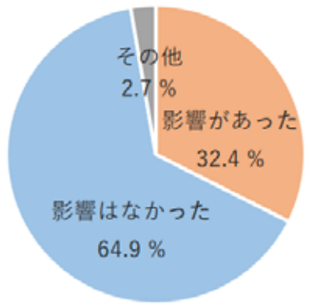
① 収益について



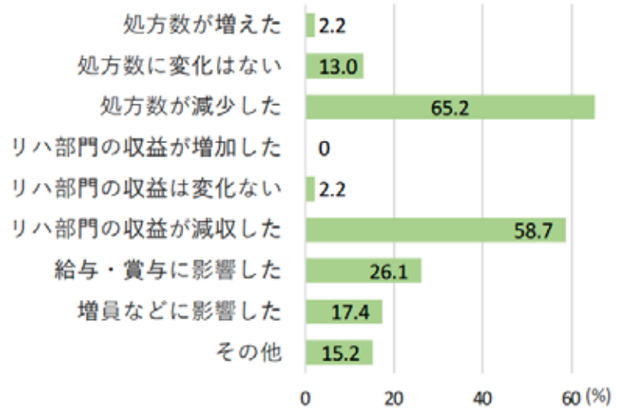
② リハ処方数について



③ 給与・賞与への影響



④ 院内ま部署内などで新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生したと回答した46施設リハ部門への影響（複数回答、施設数割合）



⑤ ①〜③以外のリハ部門への影響（記述を集計、施設数割合）

【業務】	
感染対策など業務の増加	13.5%
訓練室の使用制限	10.8%
訓練や家屋調査・家族指導・カンファなどの業務縮小	8.1%
リハ中止	6.8%
【スタッフ】	
陽性や濃厚接触者該当による出勤減少	8.1%
出勤スタッフ数・出勤時間の調整	5.4%
スタッフの配置変更	5.4%
リハスタッフの退職	2.7%
【物品・機器の使用制限、購入制限】	4.1%
【コミュニケーション】	
スタッフ行動制限やストレス増加	5.4%
スタッフ間のコミュニケーションの減少	4.1%
リハ部門へのハラスメント	2.7%
【教育の低下】	
勉強会減少・学会出席制限・実習制限	5.4%

医療報酬部

報　告

部長　廣瀬 幸子

【まとめ】　※前年度までの調査結果もホームページで公開しています

回答施設の背景：例年と比し、回答施設の基本情報に大きな変化はない。

リハスタッフ数：昨年に比しスタッフ数を増員・維持している多くの施設では新型コロナウイルスの影響を受けていなかったが、減員(退職者分は補充不可)した施設は30%前後、減員(施設の都合で減員)した施設のそのほとんどが新型コロナウイルスの影響を受けていた。

病期機能別リハ処方割合：本年度は高度急性期病床の機能別に処方割合を詳細に問い情報を得た。急性期病床を有する施設の半数は7割以上のリハ処方があり例年と変化はなかった。今後も急性期のリハ介入の在り方が課題となっており注視していく項目と考える。

早期離床・リハビリテーション加算：例年と変化はなく、疾患別リハビリテーション料で算定している、専従スタッフの配置などで費用対効果が期待できない点が算定可否の理由として上がっている。専任などの算定要件から、タイムマネジメント面など今後は算定している施設へ詳細を調査していく。

回復期リハビリテーション病棟：昨年度の改定で入院期限の発症からの期間に係る事項が撤廃された。回答施設数は少ないものの、6割の施設で改定前の期間を超えて入院する患者がいることがわかり脳血管疾患が多かった。東京都はCOVID-19患者の病態に応じ積極的に受入れる回復期支援病院を確保しており、重症化症例の転院など今後調査していく。

地域包括ケア病棟：入棟経緯は例年と変化はない。

リハビリテーション実施計画書：昨年度の改定でリハビリテーション総合計画評価料に新設された「運動量増加機器加算」を算定している施設はわずかであった。実施計画書に関しては医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフトや来年度の診療報酬改定でも議論に挙がっており注視していく。
介護保険との連携：例年と変化はない。介護保険施設との連携手段ではサービス担当者会議などが多くあがっていたが、コロナ禍で家族や外部スタッフの同席が難しいことも予想され、ICT活用状況なども今後調査していく。

新型コロナウイルス対応：調査期間は第5波の緊急事態宣言解除（〜9月30日）され、感染者数が減少してきた時期に実施している。昨年度調査と比し、陽性患者の受入れ数や早期からのリハ介入数が増加している。ウイルスや感染対策知識の充実・ワクチン接種等により早期からの呼吸リハ及び廃用予防などを目的としたリハ介入が増加したと考えられる。リハ部門が受けた影響として、半数以上の施設で収益・リハ処方数ともに減少していた収益面以外の影響も多数聞かれ、「業務」「スタッフ」「物品機器の使用制限、購入制限」「コミュニケーション」「教育の低下」に分けて集計した。今後も診療報酬（収益）と感染対策を勘案して対応しなければならない。

令和4年度は診療報酬改定があり、「新型コロナウイルス感染症等にも対応できる医療提供体制の構築」、「医師等の働き方改革等の推進」が重点項目としてあがっている。それを踏まえ改定の影響調査を来年度の同時期に実施予定です。ご協力よろしくお願い致します。
医療報酬部では講習会の開催（本年度は2月2日）、診療報酬に関する相談・助言事業を行なっており、詳細は東京都理学療法士協会ホームページをご参照ください。

【本件に関する問い合わせ先】渉外局医療報酬部　shogai-hoshu@pttokyo.net

報　告

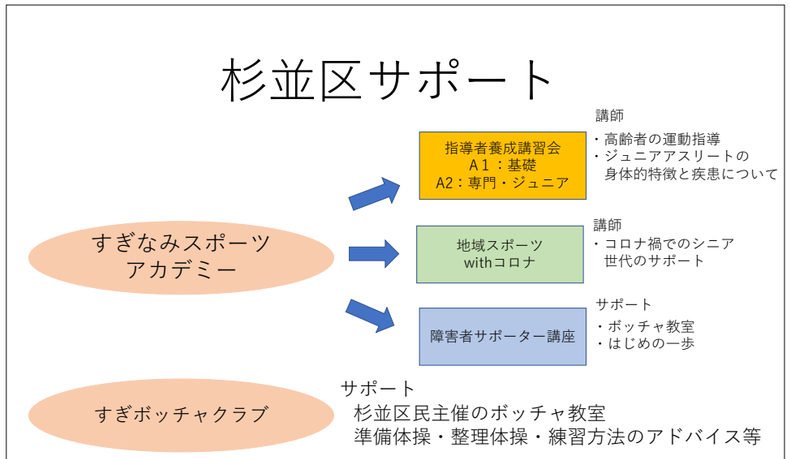
局長　板倉 尚子

【報告】令和３年度　杉並区サポート

杉並区では、ジュニアから高齢者まで幅広くスポーツ・障がい者スポーツ支援や介護予防活動を積極的に行っています。スポーツ局は（公財）杉並区スポーツ振興財団からのご依頼を受けて、杉並区主催の「すぎなみスポーツアカデミー」の講師派遣やイベントサポートの協力をしています。今回のニュースでは今年度を通じてのイベントをご紹介させて頂きます。

①　　すぎなみスポーツアカデミー

スポーツアカデミー講座では、【指導者養成講習会Ａ1/A2 コース】・【地域スポーツ with コロナ】・【障害者サポーター講座】と４つの事業のご依頼を頂きました。



指導者養成講習会は地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方を養成する公認スポーツリーダー養成コースの A1 コースと、子どもの身体づくり、動きづくりについての知識や、幼・少年期の運動支援について学ぶ公認ジュニアスポーツ指導員養成コースの A2 コースの２コースとなっております。

Ａ１コースでは、スポーツ指導者に必要な医学的知識と高齢者への運動指導を担当し、地域のスポーツ指導者を対象に、地域でスポーツに携わる方に必要な医学的知識や高齢者を指導するにあたり留意すべき点について講義をしました。A2 コースでは「スポーツ医学」の講師を担当しました。この養成講習会は子どもの身体づくり、動きづくりについての知識や、幼・少年期の運動支援について学ぶ講習会で、修了者にはジュニアスポーツ指導員資格が付与されます。今回は杉並区内のスポーツ推進委員や、学校や保育園に関わっている指導者、30 歳代から 60 歳代の男女と幅広い方が参加され、ジュニアアスリートの発育・発達過程における身体特徴やジュニア期に多い内科的・整形外科的疾患について講義をしました。動画を用いて未就学児と就学児の動作観察や、怪我や疾患予防のためのウォーミングアップ・クールダウンのストレッチを実演しました。参加者の方々は熱心に聴講され実技にも積極的に取り組まれており、ジュニアアスリートへの指導に「スポーツ医学」を活かそうとする熱意を感じました。これからも、指導者の方が現場に活かせるように工夫してお伝えし、杉並地域のスポーツ発展や子どもの成長の一助となるような取り組みができればと思います。

地域スポーツ with コロナではコロナ禍における高齢者の運動指導の講師依頼を頂きました。障害者サポーター講座では、東京都障害者スポーツ協会の講師の元、ボランティアの方と共に肢体不自由や知的障害についての知識を深め、ボッチャ教室の運営やサポートを行いました。また日本体育大学教授の野村一路先生のご指導の元、障害者スポーツ教室の運営方法やアイスブレイク、プログラムの立て方等を学び教室運営にも携わりました。

②　　すぎボッチャクラブ

杉並区民が立ち上げたボッチャクラブが練習会を行っており、参加者の中には肢体不自由、知的障害のある方も参加されております。理学療法士の役割として準備体操・整理体操や練習方法のアドバイス等のご依頼を頂き、一緒にボッチャの練習や試合を行い楽しみながらサポートを行っております。

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

杉並区サポートでは介護予防や障がい者　スポーツに携わり、老若男女・障害の有無に関わらず多くの杉並区民の皆様と交流を深めることが出来ます。

TOKYO2020、冬季北京オリンピック・パラリンピック大会ではスポーツ界が盛り上がっており多くの理学療法士が活躍しています。また、高齢化社会となってきている中、介護予防も大変重要な役割と考えております。まさに、理学療法士の協力は大変大きな役割であると考えております。

来年度も新たに事業展開していくことが予想されます。介護予防・障害者スポーツに興味がある方はぜひ一緒に活動してみませんか！！

【杉並スポーツアカデミー】

・指導者養成講習会

2021.6/26　Ａ１コース　高齢者の運動指導について

参加者：15 名　理学療法士：２名

2022.2/13　Ａ２コース　「スポーツ医学」について

参加者：９名　理学療法士：１名

・地域スポーツ with コロナ

2021.11.29　コロナ禍におけるシニア世代のサポート

参加者：17 名　理学療法士：２名

・障害者サポーター講座

ボッチャ教室　2021.10/3,10/17,10/31,12/18

参加者：49 名　理学療法士：４名

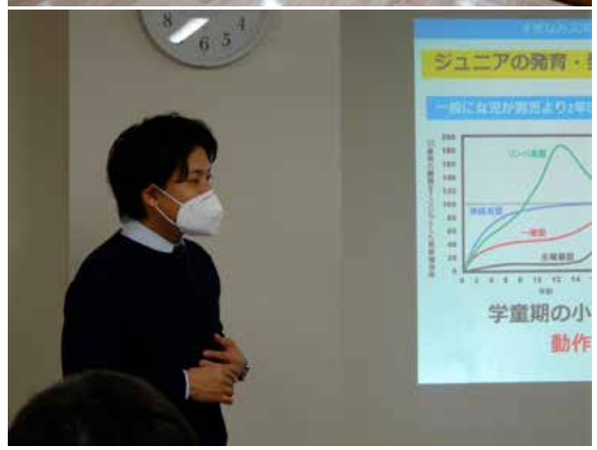
はじめの一歩　2021.9/26,11/3,2022.1/30

参加者：72 名　理学療法士：６名

【すぎボッチャクラブ】

2021.4/17,11/27,12/25,2022.2/12

参加者：32 名　理学療法士：７名



文責：スポーツ局スポーツイベントサポート部

西條玫（三宿病院）

【報告】第６回 東京都オープンテコンドー選手権大会・第 17 回 町田市テコンドー選手権大会 メディカルサポート

日　時：2021 年 11 月 28 日（日）

場　所：町田市総合体育館 第一・第二武道館

この度、町田市テコンドー協会主催、町田市・国際テコンドー連盟全日本協会・友好団体後援にて開催されたテコンドー大会にメディカルスタッフとして参加させて頂きました。延べ参加選手数は 40 名、選手対応は 2 件でしたが相手選手の打撃による顔面打撲や、相手選手を蹴り上げる際の膝関節捻挫など、さすが格闘技！という内容で刺激的なメディカルサポートとなりました。試合中の出血や脳震盪、骨折や脱臼などの外傷も多く発生する競技であり、改めて迅速で的確な評価と応急手当てスキル向上の必要性を実感しました。

また今回コロナ禍での開催でしたが、開催に向けて感染対策の会場シミュレーションやスタッフトレーニングなどを事前に行われており、イベント開催における準備・対策なども非常に勉強になることばかりでした。

今回、メディカルスタッフとして参加するための知識・技術、ならびに今般の社会状況の中で選手・スタッフが安心、安全にスポーツを楽しむための環境整備など、本当に学びの多いサポートとなりました。貴重な機会を頂きましたことに心より感謝いたします。今回の経験をもとにまた質の高いメディカルサポートができるよう精進していきます。

報告者：スポーツ局 水石裕（杏林大学病院）

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【2021 年度最終報告】フェンシング大会会場サポート

日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様からのご依頼にて、今年度最後となるフェンシング競技大会の会場サポートを行いましたので報告します。

会場サポートでは検温、グローブ、マスク、フェイスシールド等の感染対策を行いつつ、予防テーピング、外傷に対する急性期対応、コンディショニング、リコンディショニング、アップやクールダウンの運動指導等を行っています。他組織における他職種との連携した活動も含め、職場業務だけでは経験することの出来ない理学療法士としての大変貴重な現場経験を積むことが出来ました。

更には、年間を通し様々な大会で同じ選手からの依頼だけでなく、その選手伝いに知り合いの選手からの相談等、少しずつではありますが私達の活動の理解と認知度が増加してきていると感じます。

今年度に引き続き来年度も、このような職場で活きる実践体験の機会を大切に、感染対策にも気を付けつつ、様々なスポーツ大会会場サポートに参加したいと思います！

改めまして、今年度もこのような機会を与えてくださった日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、そして活動を支援して下さる東京都理学療法士協会会員の皆様に心から感謝いたします。最後になりますが、共に現場活動に熱動した皆様方、来年度もどうぞ宜しくお願い致します。有難う御座いました！！

＜第 29 回 JOC ジュニアオリンピックカップフェンシング大会（日本フェンシング協会主催）＞

・日　　程：2022 年 1 月 6 日～ 9 日（4 日間）
・会　　場：駒沢オリンピック公園体育館
・参加者数：1287 名（ジュニア）
・対応件数：37 件
・派遣者数：延べ 8 名

＜第 7 回全国小学生フェンシング大会（日本フェンシング協会主催）＞

・日　　程：2021 年 12 月 11 日、12 日（2 日間）
・会　　場：駒沢オリンピック公園体育館
・参加者数：296 名（小学生）
・対応件数：6 件
・派遣者数：延べ 4 名

＜東京都フェンシング選手権大会（東京都フェンシング協会主催）＞

・日　　程：2021 年 12 月 9 日、10 日（2 日間）
・会　　場：駒沢オリンピック公園体育館
・参加者数：176 名（シニア）
・対応件数：8 件
・派遣者数：延べ 2 名

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

報　告

局長　板倉 尚子

【報告】2021 年度フェンシング練習会サポート

日　　時：2021 年 4 月から 12 月（61 日間）
場　　所：National Training Center East、大蔵第二運動場体育館
サポートスタッフ：延べ 66 名
対応件数：200 件

2021 年度の新たな取り組みとし、フェンシング大会サポートだけでなく練習会会場サポートも実施した。
＜対象＞高校生から社会人までの選手、他
＜サポート内容＞
・練習会中に発生する急性外傷に対する応急手当て
・スポーツ障害への介入、他

　選手たちは病院にかかるほどではないが、チェックして欲しいところや相談したいことが日頃から多くあるとの訴えが聞かれていました。スポーツ障害に悩む選手には、なぜそのような問題が生じているのかを一緒に考え、競技動作や予防に対するトレーニングの提案をしました。
　サポートスタッフとしてスポーツ動作について考える機会が増加した為、サポートスタッフ自身が競技動作を経験することにより、競技としてのフェンシングとそれに対するスポーツ理学療法を更に深められたと思います。
　最後になりましたが、１年間を通し多くのサポートの機会を頂くことができ、会員を代表して東京都フェンシング協会様並びに東京都理学療法士協会に心から感謝致します。そして、今年一年一緒に活動して頂きました皆様、来年度も是非ご一緒にッ！と願いも込め１年間のご協力誠に有難う御座いました！！

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　部長　渡邊祐介（浮間中央病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【報告】青山学院大学フェンシング部サポート

日　　時：2021 年 11 月 27 日、12 月 11 日、12 月 18 日
　　2022 年 1 月 8 日、2 月 12 日（計 5 日間）
会　　場：青山学院大学練習場
参 加 選 手：11 ～ 19 名
理学療法士：各回 2 ～ 4 名

スポーツ局では 2020 年 11 月より青山学院大学フェンシング部にてトレーニング指導やコンディショニング、フィジカルチェックなどのサポートを定期的に行っています。
サポートを開始してから約 1 年が経過し、2021 年 10 月に大学フェンシングの代表的な大会である関東学生フェンシング選手権を迎えました。この大会で好成績を残すとインカレに出場することが出来ます。近年、同大学ではインカレ出場者が出ていない状況であり、サポート開始当初からインカレ出場をチーム全体で目標に掲げ練習を重ねてきました。本大会では結果的に 4 名の選手がインカレに出場することが出来ました。
年間を通じて新型コロナウイルスの影響で直接のトレーニング指導が途切れてしまうことも度々ありました。大学内でのトレーニングはもちろんですが、その都度オンライントレーニングを適宜取り入れながら選手たちが主体的に練習に取り組んでこれたことが結果に繋がった一因であると考えております。
大会を通じて各選手及びチーム全体としても新たな課題が見出されています。この大会で 4 年生は引退となり新たなチームに切り替わるため、改めてチーム・個人の課題を整理して選手のパフォーマンスアップに貢献できるよう引き続きフォローして行きたいと思います。

報告者：関口諒（山王リハビリ・クリニック）

スポーツ局学校保健部

お知らせ

局長　板倉 尚子

【学校保健部からのお知らせ】

学校保健部では関係機関ともに共同の研究を行っております。その一つに、主に学校で起こるスポーツ関連の事故による傷害を予防するため、「これで防げる！学校体育・スポーツ事故」と題するシンポジウムを毎年企画・開催しています。
今年度は、体育館に関わる傷害について調査・検証し、子ども達、そして地域住民が学校体育館を安全に使用・利用するためにはどのような施設・設備が望ましいか、について検討しました。今回はその経緯と結果を広く共有したいと考え、シンポジウムを開催します。
https://safekidsjapan.org/project/symposium-20220326/

報告者　野々山真樹

スポーツ局学校保健部

報　告

局長　板倉 尚子

【続報／防災教育授業】

防災教育の続報をおしらせします。発災時には適切にかつ迅速に人を運ぶ（移乗・移動等）ことが必要であり、移動動作を指導するスペシャリストとして理学療法士が防災教育に関わっています。今回は 2022 年 2 月 7 日に神田女学園中学校高等学校（中学 3 年生：31 名）を対象に、エイブル山内株式会社顧問の佐伯潤先生と共に防災サイコロを用いた防災教育を実施して来ました。前回は、発災直後に「これからどうする」、「どこへいく」「何をする」の設問でしたが、今回は「なぜ」を含めて Version Up した授業内容とし、「どこ」へ、「なぜ」行くべきか「注意すべきこと」は何かについて、通学路の危険や安否確認に関する注意点などを指導しました。授業後には教員の方々との振り返りを行い、「普段、発言しない生徒が積極的に授業に参加していて、アクティブラーニングの成果が得られている」との評価がありました。今後も継続し、理学療法士として防災教育活動の推進に励むとともに、理学療法のブランディングを進めていきます。

報告者　スポーツ局次長／鈴木享之

災害対策委員会

お知らせ

委員長　松本 浩一

第 15 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

東京都理学療法士協会では、東京都作業療法士会並びに東京都言語聴覚士会と合同で、毎年 2 回実施しております災害時安否確認システム予行演習を下記内容で実施致します。近年の自然災害等の増加を受け、情報収集・共有体制に課題を感じる中、平時からの備えが重要と考えております。皆様、奮ってご参加いただければ幸いです。

【災害時安否確認システム】
目　的：① 会員の安否状況の確認と各地域の被災状況を確認する
　　② 上記の情報を災害支援やボランティア派遣に役立てる

【第 14 回災害時安否確認システム予行演習】
日　時：　2022 年 3 月 11 日（金）～ 2022 年 3 月 18 日（金）
対　象：　理学療法士・作業療法士・言語聴覚士　★個人単位での参加（回答）となります
方　法：　URL 又は QR コードから専用フォームにアクセスし、必要事項を記載・送信して下さい
備　考：　東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会との合同開催
　東京都理学療法士協会ホームページ・ニュース及び各種メーリングリスト等で周知予定
　※結果は、東京都理学療法士協会ホームページ・ニュース等で報告予定

＜ URL ＞
https://forms.gle/pNLqEEr1fnLKEe7w7

＜ QR コード＞

【お問合せ先】
医療法人財団健貢会　総合東京病院診療技術部　リハビリテーション科　担当：松本浩一
TEL: 03-3387-5119（直通）　E-mail: matsumotokoichi.biz@gmail.com

報　告

委員長：齋藤 弘樹

報告１　ハラスメントに関する研修

内　　容：「病院・施設の管理者に向けたハラスメント対策」
開催日時：令和 4 年 2 月 8 日（火）19：00 ～ 20：30
開催場所：WEB 開催（ZOOM）
参 加 者：41 名
司　　会：齋藤 弘樹　氏（倫理委員会　倫理委員長　大橋病院）
講　　師：村永 信吾 氏（亀田総合病院 リハビリテーション事業管理部 部長）

今回の研修会は亀田総合病院リハビリテーション事業管理部でご活躍の村永信吾先生をお招きし「病院・施設の管理者に向けたハラスメント対策」というテーマで開催致しました。
会の冒頭では研修参加者のアンケート結果を紹介して頂き、実際多くの参加者がハラスメントを経験もしくは存在を認識していることが明らかとなった所からご教授頂きました。
講演の中では、ハラスメントを知りハラスメントの加害者や被害者を生まないことに加えて、皆が働きやすい生産性の高い職場づくりを目指すための取り組みについて大変わかりやすく説明して頂きました。多くの事例提示とその解釈の中で自らの組織のあり方を振り返る良い機会になったのではないでしょうか。改めて組織管理者にはハラスメントのない環境づくりを推進する義務があることや、管理者だけでなくスタッフ皆で心理的安全性の担保された職場作りを行っていく必要があることを認識する良い研修会となりました。

報告者：齊藤　悟（北医療センター）

お知らせ

委員長：齋藤 弘樹

報告２　理学療法士賠償責任保険に関する問い合わせへの回答

昨年の令和 3 年 11 月 4 日に「療法士賠償責任保険及び団体保険に関する説明会」を開催致しました（詳細は都士会 NEWS NO.220 に掲載）。その際に、参加者から挙げられた質問に対して、保険会社からの回答を頂いたので、以下に掲載致します。万が一事故を起こし、病院にではなく、個人に訴えられてしまったら…を考えると、保険の加入を考えることは大事であると感じました。また、この保険に加入出来ることも、協会に所属することのメリットであると考えられます。

公益財団法人　東京都理学療法士協会　御中

三井住友海上火災保険株式会社
公務第二部営業第一課
TEL050-3681-6465

理学療法士賠償責任保険に関するご質問に対する回答

※以下回答は、いかなる場合でも適用されるということを記載したものではございません。発生した事故の状況を保険会社が詳細に査定した上で、保険金のお支払可否を判断いたします。
また、被保険者である会員様に法律上の賠償責任がない場合は保険金お支払の対象となりませんのでご注意ください。
実際に事故が発生した場合には、当社までご連絡いただけますと幸いです。

事例１）
スポーツ団体や競技団体にトレーナーとして依頼を受けて派遣された理学療法士がケガの予防的処置としてテーピングやストレッチ運動指導等のサービスを行った。これらの理学療法士による行為が原因で対象者が該当箇所を痛めてしまった（あるいは、理学療法士による監督下で転倒し怪我を負った）。
回答１）
身体に障害の発生が予測される方（健常者含む）に対する「主としてその心身機能の維持または向上を図るため、運動を行わせ、および徒手的操作その他の物理的手段を加える業務、またはそれに付随する業務」として、本保険制度の補償対象になります。

事例２）
地域のウォーキングイベントやマラソンイベントにおいて、主催団体から依頼を受け派遣された理学療法士がストレッチやマッサージ等のサービスを行った。これらの理学療法士による行為が原因で対象者が該当箇所を痛めてしまった（あるいは、理学療法士による監督下で転倒し怪我を負った。）
回答２）
回答１同様、補償の対象になります。

事例３）
障害者施設からの依頼を受け派遣された理学療法士が定期的に利用者さんにストレッチや運動を提供していた。これらの理学療法士による行為が原因で対象者が該当箇所を痛めてしまった（あるいは、理学療法士による監督下で転倒し怪我を負った）。
回答３）
「医療行為」に該当する行為については、補償の対象は医師の指示の下に行われたものに限られます。「医療行為」に該当しないものにつきましては、個別判断となりますが、基本的に補償可能である可能性が高いです。

事例４）
小学校や中学校等の学校側の依頼を受け派遣された理学療法士が授業にて、ストレッチや運動を指導した。これらの理学療法士による行為が原因で対象者が当該箇所を痛めてしまった（あるいは、理学療法士による監督下で転倒し怪我を負った）。
回答４）
回答１同様、補償の対象になります。

【理学療法士賠償責任保険　新規募集中 !!!】
2022 年 2 月 16 から 2022 年 3 月 15 日まで

お申込手続きはこちらから→ https://rigaku-hoken.net/index.html
＜ QR コード＞　スマートフォンよりアクセスできます。
* 毎月 15 日締めで中途加入も受け付けております。

以上

報告３　日本理学療法士協会より倫理啓発動画のお知らせ

倫理委員会では、倫理啓発活動を行っております。日本理学療法士協会からも、啓発動画のお知らせが届いています。学会や研修会等で開始前や休憩時間などの合間に放映いただくなど、積極的にご活用ください。

http://www.pttokyo.net/topics/2021/06/15935.html

報告者：齋藤 弘樹（大橋病院）

■　機関誌『理学療法　東京』投稿募集のお知らせ　■

当士会では年一回、機関誌『理学療法　東京』を発行しており、投稿原稿を常時募集しています。投稿された原稿は査読者に依頼し掲載可能とみなされれば校正ののち、その時点で最も発行が近い『理学療法 東京』に掲載します。

生涯プログラムへの反映について

・新人教育プログラムは、反映されません。
・認定・専門理学療法士制度では，『3.-4) その他の査読付きリハビリテーション関連雑誌の筆頭著者 10 ポイント』に該当します。
＊ただし、内容によって専門分野での認証されない場合があります。反映される方は、発刊後に自己申請をお願い致します。

《執筆投稿規定》

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】
公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。
【投稿原稿の条件】
投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。
【著作権】
本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。
【研究倫理】
ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。
【原稿の採択】
原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。
【執筆規定】
1. 論文構成
1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
2）キーワード：標題及び要旨から 3 個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名
4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。
5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。
① はじめに（序論、諸言、まえがき等）
② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。
③ 結果
④ 考察
⑤ 結論（まとめ）
⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合、最初の 2 名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。
＜表記例＞
・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.
・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.
・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.
・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths,London,1983,pp224-227.
6）図表
原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。
2. 原稿規定分量
原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。
3. 文字表記
原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系　(SI 単位）を用いる。
4. 略語
略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。
5. 表紙頁，著者頁
　論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所・電話番号・Email アドレス) を記載する。表紙頁, 著者頁の後に要旨･本文･図表を改めて記載する。
6. ページ番号・行番号
　原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に 5 行ごとに行番号を記載する。
【原稿送付方法および連絡先】
1）原稿送付先
原則として投稿原稿一式を 1 つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。
2）原稿送付先および連絡先
〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32
社会医学技術学院　　理学療法学科
(担当者) 中山雅和
TEL：042-384-1030
FAX：042-384-8508
E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

機関誌編集部

お知らせ

部長　中山　雅和

編集後記

2 月の下旬となりましたが、オミクロン株の猛威はとどまることをしりません。新規感染者数は上げ止まっている状況ですが現場では職員が濃厚接触者や陽性者となり、出勤が困難となるケースが頻発し、会員諸氏の施設でもご苦労が絶えないことと存じます。世の中が本当に大きく変化していることを実感します。落ち着いた日常が早く訪れることを祈るばかりです。(M.I)

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

9,758 名（令和４年２月２５日現在）

（事務局）　〒 151-0053　東京都渋谷区代々木 2-26-5　バロール代々木４０９号

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036